RISOGRAPH

MZ970/770/730

取扱説明書／連携機（オプション）

RISO

024-36011

⚠ 注意

「安全上のご注意」は印刷機の取扱説明書に記載してあります。
ご使用になる前に必ずお読みください。

ごあいさつ

このたびは、連携機（Prioa）をご採用いただきましてまことにありがとうございます。
本書では、MZ970/770/730で原稿を読み取り、連携機から印刷する［RLPモード］での操作方法を説明しています。
ご使用になる前に、また、ご使用中不明な点があるときにお読みいただき、本製品とともに末永くお役立てください。

RISO は理想科学工業株式会社の登録商標です。
RISO iQualitySystem™ は理想科学工業株式会社の商標です。
は理想科学工業株式会社の商標です。

© コピーライト 2006 理想科学工業株式会社

目次

本書の表記について 2
連携機を使ってできること 3
自動振分 3
RLP モード 3
連携機を使うための準備をする［RLP 情報設定］ 4
連携機情報を設定する 4
設定項目一覧 5
本機で紙原稿を読み取って連携機で印刷する［RLP モード］ 8
連携機のオプション機能を使う 10
設定可能な項目一覧 11
両面印刷のしかた［両面］ 14
原稿台ガラスまたは自動原稿送り装置 AF-VI を使用する場合 14
RISO オートフィーダー DX-1 を装備している場合 16

本書の表記について

本書では本文中の表記を次のように行っています。

注意事項等のマークについて

重要 気をつけていただきたいことや禁止事項などを記載しています。よく読んで指示に従ってください。

補足 本機をご利用いただく上で、知っておくとためになる情報や便利な情報を記載しています。

☛ 参照ページを示しています。

本書の記載内容・使用している画面やイラストについて

- ディスプレイのイラストは、初期設定では表示されていないボタンや、オプションを装着した場合にのみ表示されるボタンも、表示している状態で記載しています。
- 本書に記載している操作説明・イラスト・画面には、基本的に MZ770 を使用しています。
- 本書の操作例では、基本的にドラム 1 を「ブラック」、ドラム 2 を「レッド」として説明しています。
- 本書では、オプションの自動原稿送り装置 AF-VI と RISO オートフィーダー DX-1 をあわせて「自動原稿送り装置」と記載しています。
- ご使用中に「おかしいな」「故障かな」と思ったときは、印刷機の取扱説明書または Prioa の取扱説明書をお読みください。

連携機を使ってできること

本機を連携機（Prioa）と接続し、多枚数のプリントは本機、少部数のプリントは連携機というように分けることで、より経済的なプリントが行えます。

重要 連携機として接続できるプリンタは「Prioa」です。接続には、RISORINC-NET が必要です。

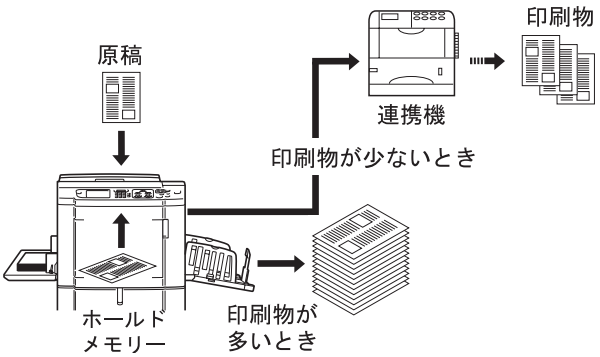
連携機を使ったプリントでは、［自動振分］と［RLP モード］の 2 つがあります。

自動振分

紙原稿やホールドメモリーに保存したホールドデータを呼び出してプリントする場合、あらかじめプリントする基準枚数（自動振分枚数）を設定しておくと、基準枚数以上の部数のときは本機を、基準枚数に達しない部数のときは連携機を自動で選択し、プリントします。

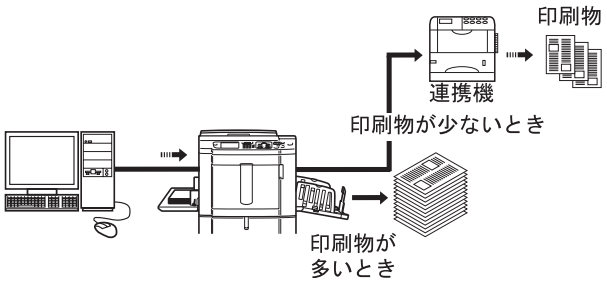
☛「MZ970/770/730 取扱説明書」の「環境設定をする／自動振分枚数」

補足
- ［自動振分］は 1 色のプリントの場合のみ使用できます。2 色プリントでは使用できません。
- ホールドデータを作成・使用するためには、本機にホールドメモリーが装着されていることが必要です。☛「MZ970/770/730 取扱説明書」の「「ホールド」と「スキャンモード」」



パソコンからのデータをプリントする場合も、プリントする部数によって自動的に本機か連携機かを選択することができます。

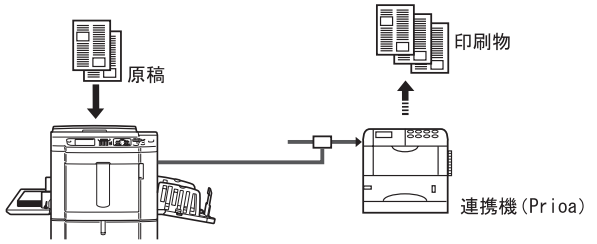
☛「MZ970/770/730 取扱説明書」「環境設定をする／受信ジョブ自動振分」



RLP モード

本機で原稿を読み取り、連携機から印刷します。両面印刷など、連携機の機能を使って印刷できます。

☛「本機で紙原稿を読み取って連携機で印刷する［RLP モード］」（P.8）



連携機を使うための準備をする［RLP 情報設定］

本機と接続した連携機を使用するには、連携機の情報を本機に登録する必要があります。

重要
- 本機と連携機が接続されていることを確認してください。接続されていないと、情報登録できません。
- 情報の登録は、接続している連携機（Prioa）1 台ごとにそれぞれ行ってください。
- 本機に連携機を 1 台だけ接続する場合は、［RLP 接続設定］を［1 対 1 接続］にしてください。

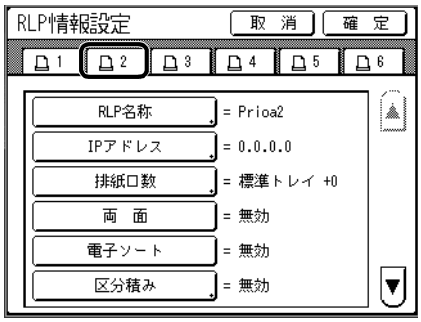
連携機情報を設定する

補足 ここでは、本機の［環境設定］の中の［RLP 情報設定］についてのみ説明しています。その他の RLP に関する［環境設定］については、「MZ970/770/730 取扱説明書」をご覧ください。

1 ［環境設定］画面で＜ RLP ボタン＞にタッチする

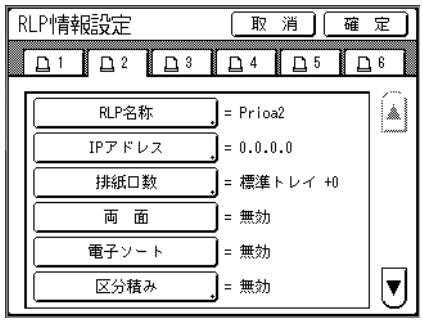
2 ＜ RLP 情報設定ボタン＞にタッチする

3 情報を登録する連携機のタブにタッチする



補足 連携機の情報は 6 台分まで登録できます。

4 登録する情報のボタンにタッチする



補足 表示された画面内に目的の項目がないときは、＜▲ボタン＞または＜▼ボタン＞にタッチして表示を切り替えてください。

5 設定を変更する

「設定可能な項目一覧」（P.11）を参考にして各項目を設定します。

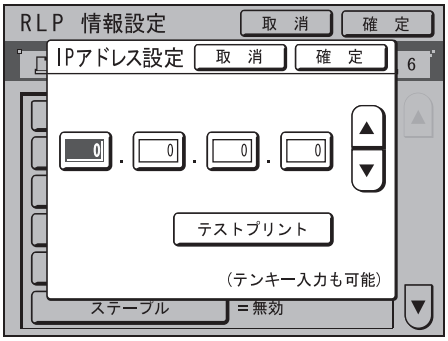
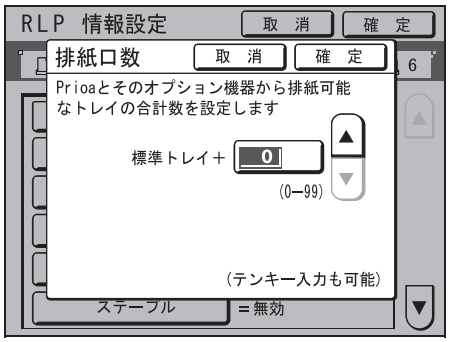
補足 設定画面が表示される場合は、設定の変更後に＜確定ボタン＞にタッチします。変更内容が確定され、［RLP 情報設定］画面に戻ります。設定を中止するときは、＜取消ボタン＞にタッチして、［RLP 情報設定］画面に戻ります。

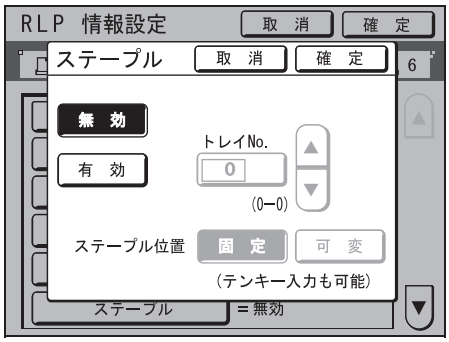
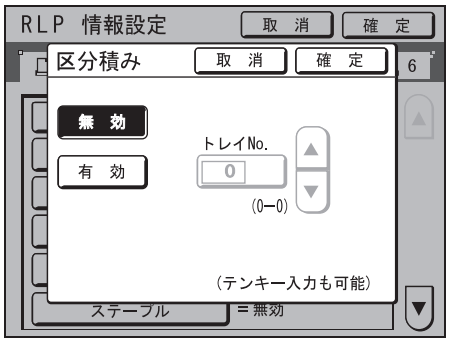
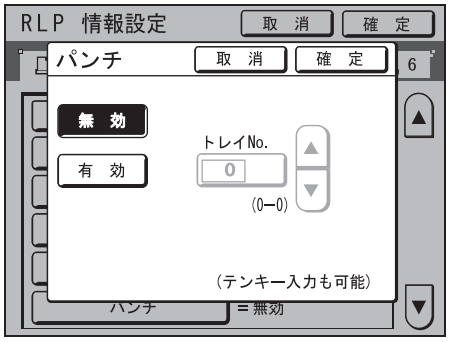
6 ＜終了ボタン＞にタッチする

基本画面に戻ります。

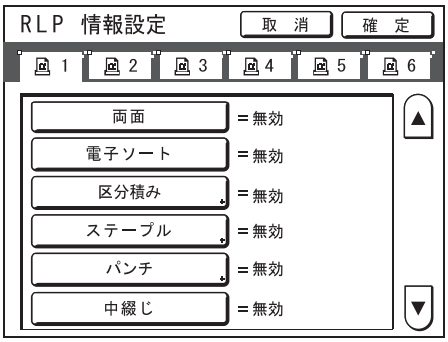
設定項目一覧

《 》は工場出荷時の設定です。

設定項目	設定内容	入力方法
RLP 名称 連携機の名称を設定します。 補足 登録した名称は RLP モード画面で表示されます。		 文字ボタンにタッチして、1 文字ずつ入力します。その後、＜確定ボタン＞にタッチして、RLP 名称を登録します。
IP アドレス設定 連携機をネットワークに接続するための IP アドレスを設定します。 • ＜テストプリントボタン＞にタッチすると、連携機へのデータ送信テストが実行されます。 テストに成功したときは、連携機からテストの結果のレポートが出力されます。失敗したときは、ワーニングメッセージが表示されます。 ＜中止ボタン＞にタッチし、設定しなおしてください。 • ＜テストプリントボタン＞ は、［環境設定の［本機 IP アドレス設定］が未設定のときは選択できません。		 • ＜▲ボタン＞＜▼ボタン＞、またはテンキーで入力します。 • 入力位置を移動するときは、直接、入力位置のボタンにタッチするか、＜＊＞キーを押して移動させてください。
排紙口数 標準トレイ以外で、排紙可能なトレイの数を設定します。 重要 • 他のオプションで設定されている「トレイ No.」より小さい値を設定したときは、他のオプションは［無効］になります。 • 実際のトレイの数が設定したトレイの数と異なる場合は、出力されずにエラーとなります。	0 ～ 99	 • 連携機の標準トレイから出力するときは、[0] を入力します。 • ＜▲ボタン＞＜▼ボタン＞、またはテンキーを押して入力します。

設定項目	設定内容	入力方法
ステープル ［ステープル］機能がある場合に［有効］に設定します。また、［ステープル］機能が使えるトレイ No. ※とステープル位置の固定・可変を設定します。	《無効》:ステープル機能なし（使用しない） 有効：ステープル機能あり 使用するトレイ No. ／固定・可変	 各ボタンにタッチして設定します。 ［トレイ No.］は、<▲ボタン><▼ボタン>、またはテンキーで入力します。
区分積み ［区分積み］機能がある場合に［有効］に設定します。また、［区分積み］機能が使えるトレイ No. ※を設定します。	《無効》:区分積み機能なし （使用しない） 有効：区分積み機能あり 使用するトレイ No.	 各ボタンにタッチして設定します。 ［トレイ No.］は、<▲ボタン><▼ボタン>、またはテンキーで入力します。
パンチ ［パンチ］機能がある場合に［有効］に設定します。また［パンチ］機能が使えるトレイ No. ※を設定します。	《無効》: パンチ機能なし （使用しない） 有効：パンチ機能あり 使用するトレイ No.	 各ボタンにタッチして設定します。 ［トレイ No.］は、<▲ボタン><▼ボタン>、またはテンキーで入力します。 入力方法は、［フェイスアップ］も同じです。
フェイスアップ ［フェイスアップ］機能がある場合に［有効］に設定します。また［フェイスアップ］機能が使えるトレイ No. ※を設定します。	《無効》: フェイスアップ機能なし （使用しない） 有効：フェイスアップ機能あり 使用するトレイ No.	

※トレイ No. はお使いの Prioa の機種により異なります。

設定項目	設定内容	入力方法
両面 ［両面］機能がある場合に［有効］に設定します。	有効・《無効》	 各ボタンにタッチするたびに、［有効］・［無効］が切り替わります。 設定方法は、［両面］［電子ソート］［中綴じ］［回転ソート］［AF 時自動フェイスアップ］［メールボックス］［ソート］とも同じです。
電子ソート ［電子ソート］機能がある場合に［有効］に設定します。		
中綴じ ［中綴じ］機能がある場合に［有効］に設定します。		
回転ソート ［回転ソート］機能がある場合に［有効］に設定します。		
AF 時自動フェイスアップ ［AF 時自動フェイスアップ］機能がある場合に［有効］に設定します。		
リバース出力 ［リバース出力］機能がある場合に［有効］に設定します。		
AF 時自動リバース出力 ［AF 時自動出力］機能があり、［リバース出力］が［有効］の場合に、［有効］に設定できます。		
メールボックス ［メールボックス］機能がある場合に［有効］に設定します。		
ソート ［ソート］機能がある場合に［有効］に設定します。		
ブックレット ［ブックレット］機能がある場合に［有効］に設定します。		

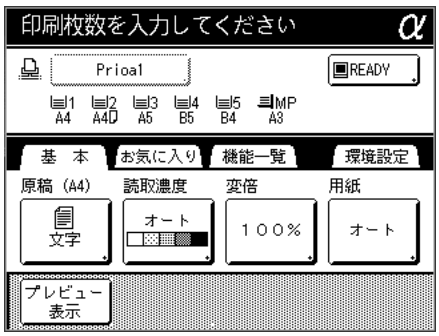
本機で紙原稿を読み取って連携機で印刷する[RLP モード]

本機で原稿を読み取り、連携機（Prioa）から印刷するモードを「RLP モード」と呼びます。
RLP モードにすると、［自動振分枚数］が設定されていてその設定枚数以上を印刷する場合でも、連携機からプリントされます。

1 RLP モードに切り替える

本機の<モード>キーを押して、< RLP 出力ボタン>にタッチし、RLP モードに切り替えます。

RLP 基本画面が表示されます。



補足 本機のディスプレイに、【RISORINC-NET を起動しています／ RLP 情報取得中です しばらくお待ちください】と表示されたときは、ネットワーク経由で連携機の情報を確認している状態です。メッセージが消えるまでお待ちください。

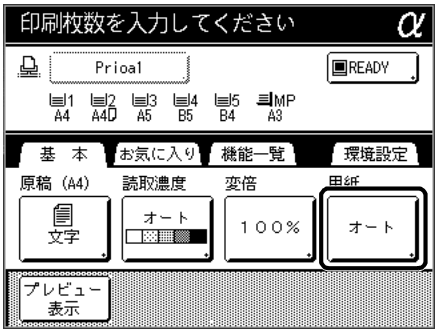
2 原稿をセットする

原稿台ガラスまたは自動原稿送り装置（オプション）に原稿をセットします。

3 用紙を指定する

連携機に用紙トレイが複数あるときは、以下の手順でトレイ（用紙サイズ）を指定してください。

❶ RLP 基本画面の［用紙］ボタンにタッチする



❷ 使用する用紙サイズのボタンにタッチする

❸ <確定ボタン>にタッチする

4 必要に応じて、プリントに必要な各種機能を設定する

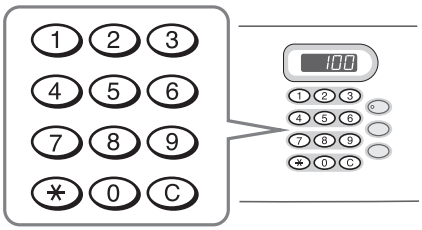
設定できる機能は次のとおりです。

- 原稿モード
- 読取濃度
- 変倍
- 網点
- メモリー
- コントラスト強調
- トーンカーブ選択
- ブックモード
- レイアウト原稿
- プレビュー表示
- オーバーレイ
- ホールド

補足
- 連携機に両面印刷ユニットなどのオプションを装着しているときは、オプション機能を使用することができます。☛「連携機のオプション機能を使う」（P.10）
- 印刷の速度や濃度、位置は調節（調整）できません。
- 本機で作業をしている途中にパソコンからデータが送信されると、パソコンからのデータを優先してプリントすることがあります。
  連携機からの出力を優先させるには、［占有延長］を設定しておくことをお勧めします。

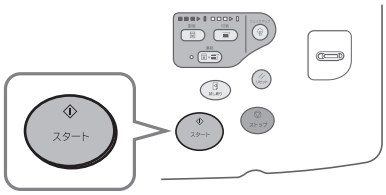
5 印刷枚数を入力する

テンキーを使って入力します。入力枚数は、枚数カウンターに表示されます。



補足 入力をまちがえたときは、＜ C ＞キーを押すと消去できます。

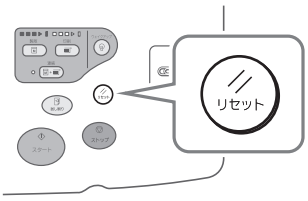
6 ＜スタート＞キーを押す



原稿の読み取りが始まります。
読み取られた原稿データは連携機に送信され、入力した枚数が連携機から出力されます。

補足 現在の設定をメモリーに登録しておくと、メモリーを呼び出すことで、次回以降も同じ設定でプリントできます。☛「MZ970/770/730 取扱説明書」の「設定をメモリーに登録する［メモリー］」

7 印刷が終了したら、＜リセット＞キーを押す

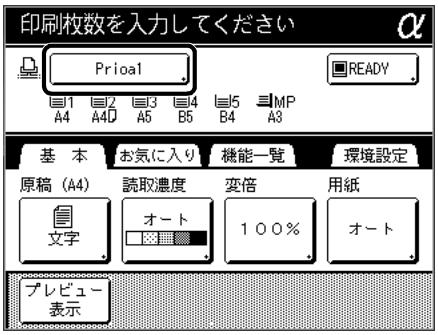


設定が初期値に戻ります。

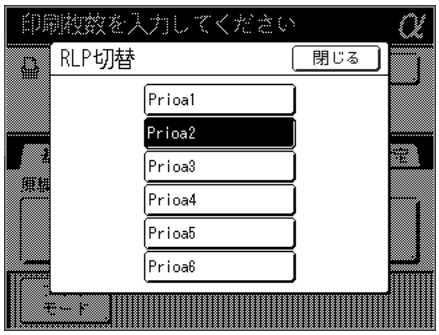
複数の連携機をネットワーク接続しているとき

複数の連携機をネットワーク接続で使用しているときは、必要に応じて、出力先として使用する連携機を切り替えることができます。

❶ RLP 基本画面で、連携機の名称のボタンにタッチする



❷ 出力先にする連携機のボタンにタッチする



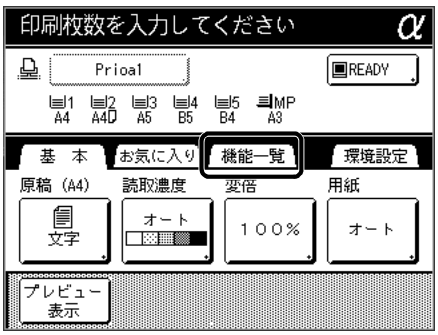
補足
- 連携機にエラーが発生している場合、その連携機は選択できません。
- RLP モード中に、選択している連携機でエラーが発生したときは、［RLP 切替］画面が表示されます。出力可能な連携機を選択しなおしてください。
  連携機の追加導入については、お買い上げの販売会社（または保守・サービス会社）に相談してください。

連携機のオプション機能を使う

ソーターや両面印刷ユニットなど、オプションを取り付けたときに使用できる機能の設定について説明します。

補足 各機能の詳細ついては、「Prioa 取扱説明書」をご覧ください。

1 RLP 基本画面で[機能一覧]タブにタッチする



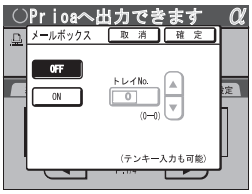
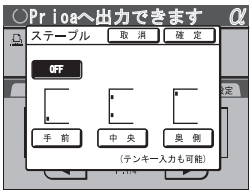
2 設定する項目のボタンにタッチする

3 設定する

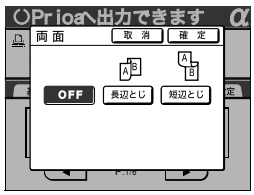
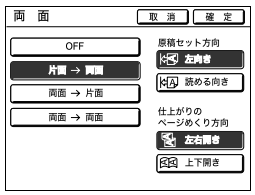
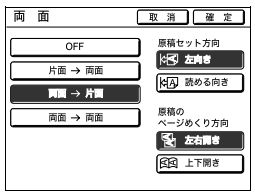
「設定可能な項目一覧」（P.11）を参考にして、各項目を設定してください。

設定可能な項目一覧

《 》は工場出荷時の設定です。

設定項目	設定内容	画面と入力方法	関連する環境設定
メールボックス 出力先の排紙トレイを選択します。	トレイ No.1 ～ n（[環境設定] の［排紙口数］で設定したトレイの合計数）	 ＜▲ボタン＞＜▼ボタン＞またはテンキーを押して入力します。	［排紙口数］： トレイ合計数を 1 以上に設定 ［ソート］機能を［有効］に設定した場合は、［排紙口数］機能は設定できません。
区分積み 複数ページの印刷物を 1 部ずつ交互にずらして排紙する機能を設定します。	ON・OFF	—	［区分積み］：［有効］を設定したときのみ 表示
ステープル 印刷物をとじる位置を設定します。	［環境設定］の［ステープル位置］により異なります。 **［固定］に設定時：** ON・《OFF》 **［可変］に設定時：** 《OFF》・手前・中央・奥側	 各ボタンにタッチして設定します。	［ステープル］：［有効］を設定したときのみ表示 ［ソート］機能または［区分積み］機能を［有効］に設定した場合は、［ステープル］機能は設定できません。
パンチ 印刷物にパンチ穴を開ける機能を設定します。	ON・OFF	—	［パンチ］：［有効］を設定したときのみ表示 ［ソート］機能または［区分積み］機能を［有効］に設定した場合は、［パンチ］機能は設定できません。
中綴じ 2 つ折りで、中央を閉じた状態で印刷物を排紙する機能を設定します。	ON・OFF	—	［中綴じ］： ［有効］を設定したときのみ表示
フェイスアップ 印刷面を上向きにして排紙する機能を設定します。	ON・OFF	—	［フェイスアップ］： ［有効］を設定したときのみ表示

設定項目	設定内容	画面と入力方法	関連する環境設定
リバース出力 自動原稿送り装置を使って読み取った原稿を、逆順にして出力する機能を設定します。	ON・OFF	—	リバース出力：［有効］に設定したときのみ表示
ソート1 複数ページの原稿を、ページ順序を保ったまま各トレイに仕分けして出力する機能を設定します。	ON・OFF	—	［ソート］： ［有効］に設定したときのみ表示 ［区分積み］機能または［メールボックス］機能または［ステープル］機能を［有効］に設定した場合は、［ソート］機能は設定できません。
電子ソート 複数ページの原稿を、ページ順序を保ったまま単一のトレイに出力する機能を設定します。	ON・OFF	—	［電子ソート］： ［有効］に設定したときのみ表示
回転ソート 複数ページの印刷物を、一部ずつ縦横交互に排紙する機能を設定します。	ON・OFF	—	［回転ソート］： ［有効］に設定したときのみ表示

両面印刷 用紙の両面に印刷する機能です。 本機に自動原稿送り装置 AF-VI（オプション）または RISO オートフィーダー DX-1（オプション）を付けている場合と、付けていない場合で画面と入力方法が異なります。 **補足** 両面印刷機能を使った印刷方法は、☛「両面印刷のしかた［両面］」(P.14)を参照してください。	**自動原稿送り装置 AF-VI を付けたとき** OFF・《長辺とじ》・短辺とじ 原稿枚数の奇数枚・《偶数枚》 **自動原稿送り装置を付けないとき** 《OFF》・長辺とじ・短辺とじ **RISO オートフィーダー DX-1 を付けたとき** 《OFF》・片面→両面・両面→片面・両面→両面 **原稿セット方向：** 《左向き》・読める向き **仕上がりのページめくり方向：** 《左右開き》・上下開き **原稿のページめくり方向：** 《左右開き》・上下開き	**自動原稿送り装置 AF-VI を付けたとき：** 各ボタンにタッチして設定します。 **自動原稿送り装置 AF-VI を付けないとき：**  各ボタンにタッチして設定します。 **RISO オートフィーダー DX-1 を付けたとき：**   各ボタンにタッチして設定します。	—

両面印刷のしかた
[両面]

両面印刷ユニット（オプション）を連携機に装着しているときは、用紙の両面に印刷をすることができます。
自動原稿送り装置の「あり・なし」および自動原稿送り装置の機種により、操作が異なります。

本機に自動原稿送り装置がない場合または自動原稿送り装置 AF-VI を装備している場合
☛下記「原稿台ガラスまたは自動原稿送り装置AF-VIを使用する場合」をご覧ください。

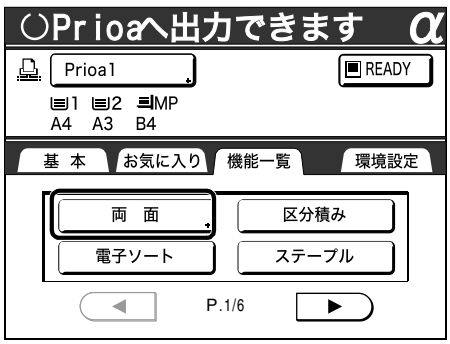
本機に RISO オートフィーダーDX-1 を装備している場合
☛「RISO オートフィーダーDX-1 を装備している場合」（P.16）をご覧ください。

補足 製版または印刷の機能一覧画面から「RLP 両面」機能が使えます。

原稿台ガラスまたは自動原稿送り装置 AF-VI を使用する場合

連携機に両面印刷ユニット（オプション）を装着しているときに設定できます。

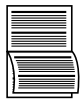
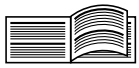
1 機能一覧画面で＜両面ボタン＞にタッチする



2 両面とじ方向を設定する

以下の表を参考に、とじ方向を設定してください。原稿のセット方向と、とじ方向の組み合わせにより、印刷物の仕上がりが異なります。

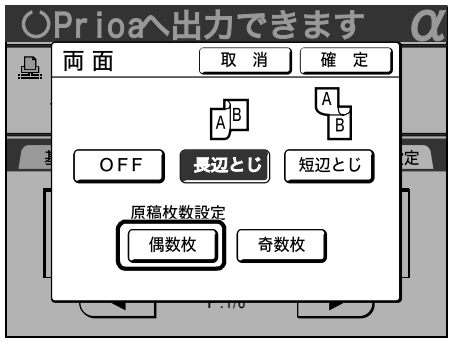
原稿のセット方向と「両面とじ方向」の関係

原稿セット / とじ方向	縦置き（ポートレート）	横置き（ランドスケープ）
長辺とじ		
短辺とじ		

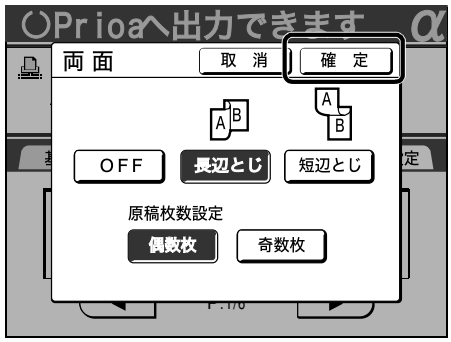
3 原稿枚数を設定する

自動原稿送り装置 AF-VI（オプション）を使用して原稿の読み取りを行うときは、原稿枚数が偶数枚か奇数枚かを設定します。

重要 自動原稿送り装置 AF-VI を使用しないときはこの手順は不要です。手順 4 へ進んでください。



4 ＜確定ボタン＞にタッチする



補足 両面印刷を行わないときは、＜ OFF ボタン＞にタッチした後に＜確定ボタン＞にタッチしてください。

5 原稿をセットする

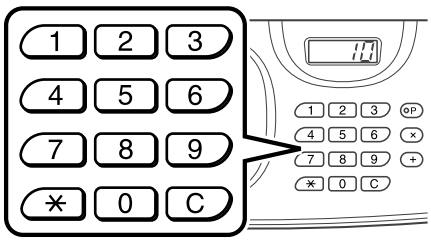
補足
- 原稿セットの詳細については、印刷機の取扱説明書の「紙原稿をプリントする」を参照してください。
- 自動原稿送り装置 AF-VI に奇数枚数の原稿をセットし、両面印刷を行うと、最初に読み取られた原稿の裏面は何も印刷されません。

6 プリントに必要な設定をする

設定できる機能は次のとおりです。

- 原稿モード
- 読取濃度
- 変倍
- 用紙サイズ
- 網点
- メモリー
- コントラスト強調
- トーンカーブ選択
- ブックモード
- レイアウト原稿
- プレビュー表示
- オーバーレイ
- ホールド

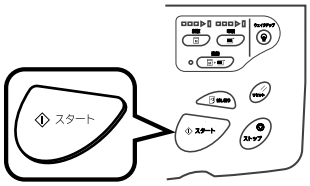
7 テンキーで印刷枚数を入力する



入力した枚数は、枚数カウンターに表示されます。

補足 枚数の入力をまちがえたときは、＜ C ＞キーを押して消去した後に入力しなおしてください。

8 ＜スタート＞キーを押す

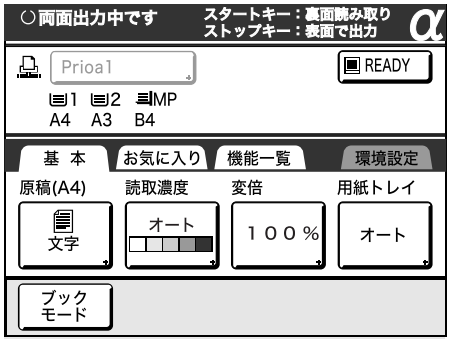


原稿台ガラスにセットしたときと自動原稿送り装置にセットしたときとでは、以降の操作手順が異なります。
以下の手順に従って操作を行ってください。

補足 原稿台ガラスと自動原稿送り装置AF-VIを併用して、原稿読み取りを行うことはできません。

原稿台ガラスにセットしたとき

【両面出力中です】というメッセージ表示後、2 枚目の原稿をセットし、＜スタート＞キーを押す。



表裏両方のデータが送信されると、入力した枚数が連携機から出力されます。
複数の両面印刷物を作成する場合は、手順 5 ～ 8 を繰り返します。

重要 1 枚目の原稿データが送信されてから、「環境設定」の「RLP 両面待ち時間」で設定されている時間内に次の原稿をセットしなかったときは、片面のみが印刷されて、連携機から出力されます。

補足
- 2 枚目の原稿をセットしないで＜スタート＞キーを押すと、片面のみが印刷されて、連携機から出力されます。
- 2 枚目の原稿をセットして、原稿が読み取られる前には、次の設定ができます。
  - 原稿モード
  - 読取濃度
  - 変倍
  - 網点・コントラスト強調
  - トーンカーブ選択

自動原稿送り装置にセットしたとき

セットした一番上の原稿から読み取りが始まります。
原稿が読み取られると、読み取られた順に入力した枚数が連携機から出力されます。

RISO オートフィーダーDX-1 を装備している場合

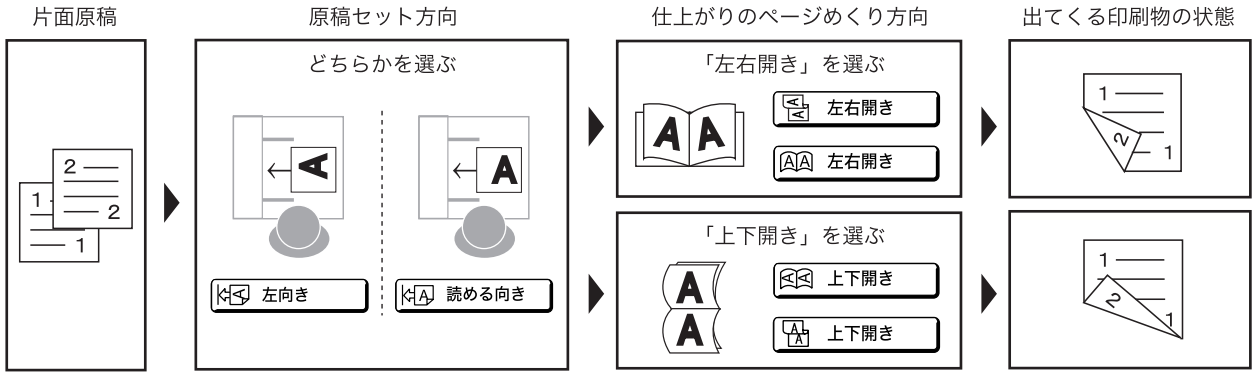
本機に RISO オートフィーダー DX-1（オプション）を装着しているときに、両面原稿の読み取りができます。

原稿のセット方向・ページめくり方向と出てくる印刷物の状態の関係

原稿セット方向 . . . . . 本機の前に立って原稿をセットするときの、原稿の向きを示します。
ページめくり方向 . . . 原稿（または仕上がり時）の綴じ方向を示します。
画面上のボタンアイコンは、原稿セット方向を基準にしたときの図になっています。

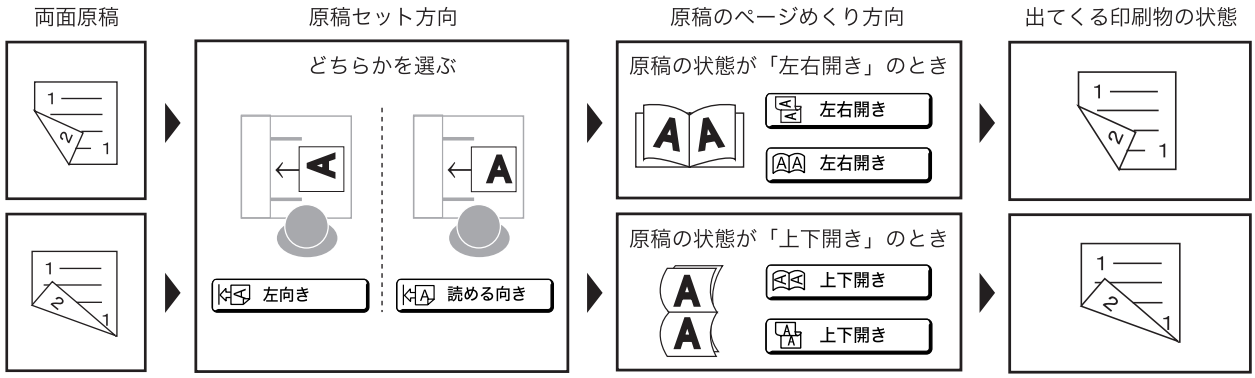
片面→ 両面 (連携機に両面印刷ユニット(オプション)を装着時)

片面の原稿を両面に印刷する場合に選択します。
原稿は、オモテ面を上向きにセットしてください。

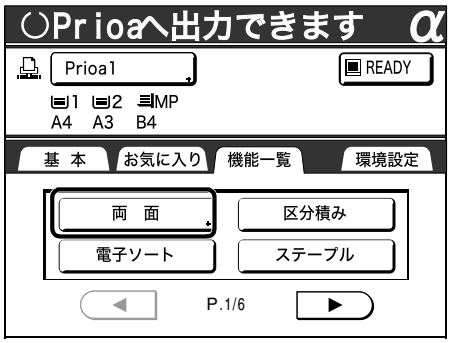


両面→ 両面　(連携機に両面印刷ユニット(オプション)を装着時)

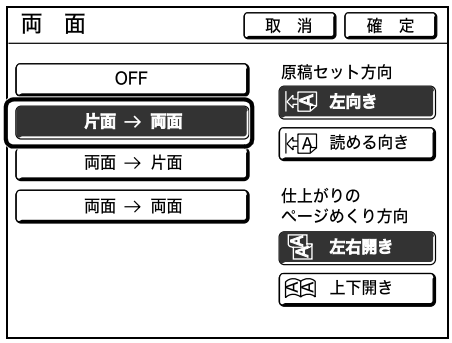
両面の原稿を両面に印刷する場合に選択します。
RISO オートフィーダー DX-1 にセットした原稿の上面（オモテ面）→ 下面（ウラ面）の順に読み取られます。



1 機能一覧画面で＜両面ボタン＞にタッチする

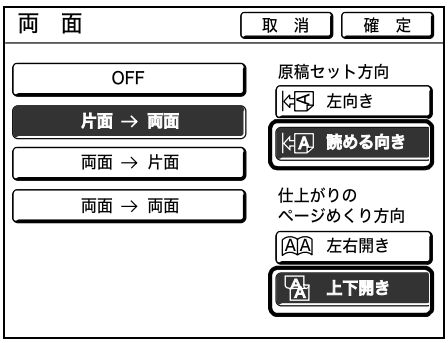


2 片面／両面の種類を選択する

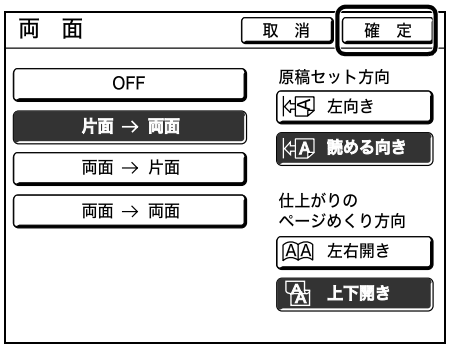


補足
- 原稿台ガラスにセットするときは、[片面→両面]にタッチしてください。
- 連携機に両面印刷ユニット（オプション）を装着していないときは、[片面→両面]、[両面→両面]はグレー表示されタッチできません。

3 「原稿のセット方向」「ページめくり方向」を設定する



4 ＜確定ボタン＞にタッチする



参考 両面印刷を行わないときは、< OFF ボタン>にタッチした後に＜確定ボタン＞にタッチしてください。

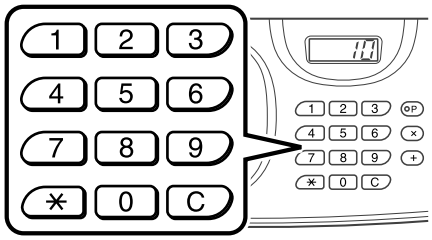
5 原稿をセットする

原稿台ガラス、または自動原稿送り装置（オプション）に原稿をセットします。
原稿セットの詳細については、印刷機の取扱説明書の「紙原稿をプリントする」を参照してください。

6 プリントに必要な設定をする

設定できる機能は次のとおりです。
- 原稿モード
- 読取濃度
- 変倍
- 用紙サイズ
- 網点
- メモリー
- コントラスト強調
- トーンカーブ選択
- ブックモード
- プレビュー表示
- オーバーレイ
- ホールド

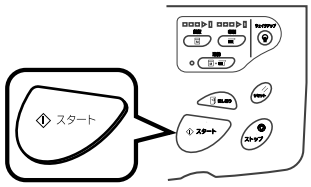
7 テンキーで印刷枚数を入力する



入力した枚数は、枚数カウンターに表示されます。

補足 枚数の入力を間違えたときは、＜ C ＞キーを押して消去した後に入力しなおしてください。

8 ＜スタート＞キーを押す

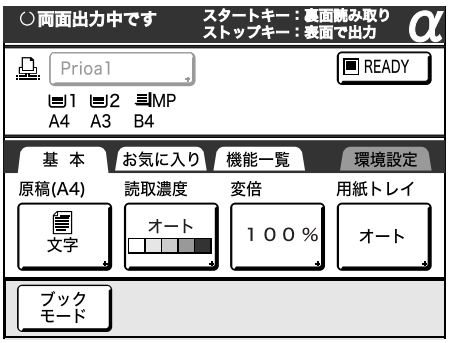


原稿台ガラスにセットしたときとRISOオートフィーダー DX-1 にセットしたときとでは、以降の操作手順が異なります。
以下の手順にしたがって操作を行ってください。

重要 原稿台ガラスと RISO オートフィーダー DX-1 を併用して、原稿読み取りを行うことはできません。

原稿台ガラスにセットしたとき

【両面出力中です】というメッセージ表示後、2 枚目の原稿をセットし、＜スタート＞キーを押す



表裏両面のデータが送信されると、入力した枚数が連携機から出力されます。
複数の両面印刷物を作成する場合は、手順 5 ～ 8 を繰り返します。

重要 1 枚目の原稿データが送信されてから、「環境設定」の「RLP 両面待ち時間」で設定されている時間内に次の原稿をセットしなかったときは、片面のみが印刷されて、連携機から出力されます。

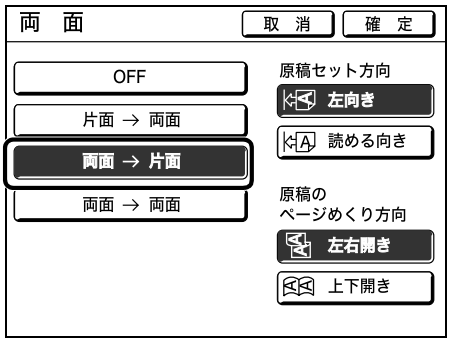
補足
- 2 枚目の原稿をセットしないで＜スタート＞キーを押すと、片面のみが印刷されて、連携機から出力されます。
- 2 枚目の原稿をセットして、原稿が読み取られる前には、次の設定が出来ます。
  - 原稿モード
  - 読取濃度
  - 変倍
  - 網点
  - コントラスト強調
  - トーンカーブ選択

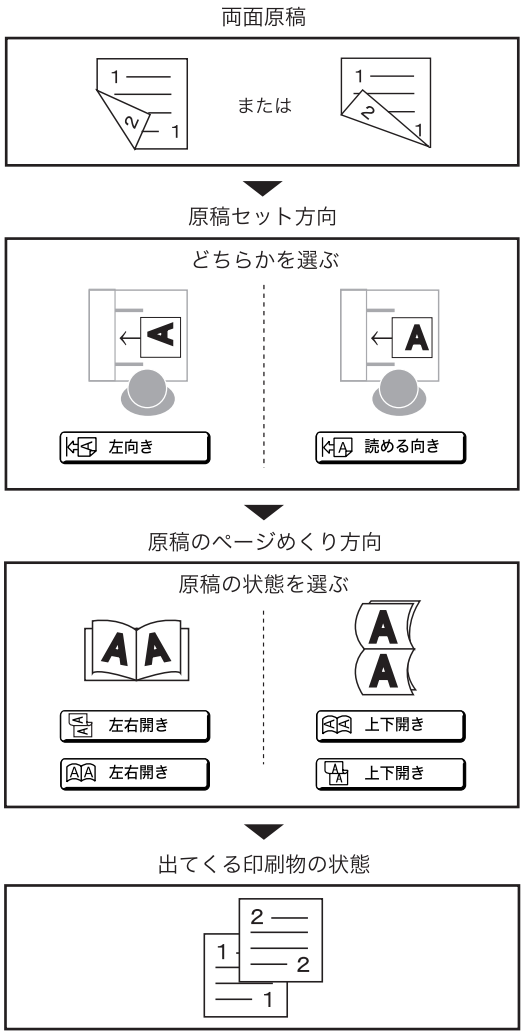
RISO オートフィーダーDX-1 にセットしたとき

セットした一番上の原稿のオモテ面から読み取りが始まります。
原稿が読み取られると、読み取られた順に入力した枚数が連携機から出力されます。

両面原稿を片面に印刷する場合

RISO オートフィーダー DX-1（オプション）を装着している場合、両面原稿を読み取って片面に印刷することができます。
［両面］画面で［両面→片面］を設定し、印刷を行ってください。





RISO

お問い合わせ先

本体・オプション製品に関しては
お客様相談室 0120-534-881

当社製プリンタドライバ/ソフトアプリケーションの操作に関しては
サポートセンター 0120-229-330

受付時間(月～金 10:00～12:00,13:00～17:00 土・日・祝日・当社休業日を除く)

理想科学工業株式会社
〒108-8385 東京都港区芝5-34-7田町センタービル 電話(03)5441-6666
ホームページ　http://www.riso.co.jp/